

研修親睦旅行

身延山久遠寺と忍野八海 平成28年9月10日(土)～11日(日)

INDEX

研修親睦旅行	1～2
臼井先生連載	2
会員企業訪問	3
例会委員会報告	4
スケジュール/編集後記	4

世界最古の温泉旅館で楽しく交流



今回の研修親睦旅行は9月10日～11日、身延山久遠寺と忍野八海をめぐる旅です。

1日目の目的地は、モンデ酒造と、石和温泉古柏園での昼食そして、宿である甲州西山温泉(慶雲館)でした。しかし、中央高速が渋滞し、予定時刻を大きく過ぎてしまったため急きょモンデ酒造ではなく、先に昼食会場へ向かうことになりました。昼食は、美味しい甲州名物「ほうとう」。地元でいただく「ほうとう」は格別の美味しさでした。



次はいよいよ、お酒好きの月星メンバーお待ちかねのワイナリー・モンデ酒造工場見学です。皆さんのお目当てはもちろん、ワインの試飲。たくさんの美味しいワインを試飲させていただき、皆さんご満悦でした。私も、家内と子供たちのお土産に、白ワインとぶどうと桃のジュースを買いました。



続いて、今宵の宿である慶雲館に到着。この宿の温泉は、西暦705年開湯以来、1300有余年、世界で一番古い温泉旅館としてギネスブックにも認定された旅館です。宴会のお料理はこの地でしか味わえない深山会席料理で、その美味しさをたっぷり堪能しました。

また、大じゃんけん大会やカラオケ大会から二次会へと、夜更けまで楽しい宴が続きました。

2日目は、まず日蓮上人ゆかりの身延山久遠寺へ。大変格式のあるお寺で、身も心も清められた気がしました。次いで、忍野八海へ。天然記念物の湧水池は、透き通るような水



の色で、神秘的なものを感じました。そこから、一路千葉へ。楽しいビンゴ大会をしているうちに、千葉に無事到着となりました。

今回の親睦旅行では、臼井先生はじめ大変多くの方に協賛をいただきました。以下にお名前だけ記させていただきます(順不同、敬称は略させていただきます)。

【臼井日出男、(株)グリーンタワー、早野商事(株)、岩田被服(株)、(有)桜木観光、小川智之、産方恒好、川名利夫、片野洋子、木内一晴、穴倉龍子、高柳啓一、竹口満代、木村光慶】

皆さま、本当にありがとうございました。おかげさまでとても意義で楽しい会員交流ができました。



(例会委員長 鷲見隆仁記)

連載

うすい日出男の
〈こくせいふかん〉の目

国政閑話二題

その一 自民党任期延長論

現在、自由民主党の総裁任期は2期6年だが、その任期を3期9年への延長論が浮上してきた。

近年は自民党の任期延長など、ついで論議されたことはないの、画期的なことと言える。

私は2020年の東京五輪をあえて安倍総理の下で迎えるべきとは思わないが、本年7月の参議院議員選挙で、自民党が圧勝して衆参共に改憲発議に必要な2/3議席を獲得することが出来た。一方では、改憲に慎重な公明党が改憲勢力に含まれていることや、憲法改正のための審議をいよいよこれから始動させることを考えると、平成30年9月で任期切れとなる安倍総理の任期をどうしても延長して、安倍総理の下で憲法改正を実現させたいという思いがさらに強くなる次第です。

その二 蓮舫民進党代表の二重国籍問題

正確に言えば、民進党蓮舫代表候補のというべきだが、民進党代表選では、他の2候補に大きく水を開けて、独走

状態だった蓮舫候補に突如として「二重国籍問題」が持ち上がった。

きっかけは、産経新聞記者のインタビューが発端で、それ以降の発言はめまぐるしく変わり、最初は「18才の時、父と出かけて台湾国籍を放棄した」との発言を「いや、17才だった」と変更し、その父親が台湾籍を放棄していないことがはっきりしてからは、「はっきりしないので、改めて台湾籍放棄申請をおこなった」と変わった。とにかく、くるくる変わるその発言は驚くばかりで、二重国籍問題に対する“無知”は恐るべきものがあり、将来、もしかしたら、日本の指導者になるかもしれない大政党の代表としては、適格性を欠くことが、大変な問題だと思う。

産経記者の二重国籍問題の質問に対して、蓮舫「台湾出身だが、ちゃんと“帰化”されていると思う」。記者「“帰化”じゃなくて、国籍取得ですけど」……。記者の国籍法改正など詳細な説明に対して、蓮舫「質問の意味が分からないけど、私は日本人です」、記者「台湾籍はないということでもいいか」、蓮舫「すみません。質問の意味が分かりません」……と逃げたが、こんなことで良いわけない!



元衆議院議員 臼井日出男

月星会の仲間をもっと増やそう!

月星会会長 林 威樹

先般、会員の皆さまにFaxでお願いいたしましたが、月星会の新たな仲間を募集しています。ぜひご紹介ください。

月星会は、平成4年に新生月星会として発足してから25年を経過しようとしています。この間、会員数は順調に増加してきましたが、ここ数年は、厳しい経済環境の中、他の経済団体と同様に会員数が減少傾向になってきました。

月星会は企業経営者が集い、共に話し合い、学び合い、住みよい社会づくりと自社の経営改善の実現を目的として活

動しています。この活動をさらに充実させるために多くの新しい仲間を募集したいと思います。

会員の皆さまの親しい友人の経営者を、ぜひご紹介ください。

★ご紹介は、先般お送りしたFaxにご記入のうえ、事務局までご返送ください。

★お電話でご一報いただく方法でもかまいません。ご希望がありましたら、総会資料や会報等をお持ちし、事務局または役員が説明に伺います。

TEL 043-273-9811 Fax 043-273-9812

第22回 中央資材(株)

気負わず、緩まずの自然体経営

強みは人づきあいの厚さ

ごく自然な事業承継

中央資材は、土木・建築資材の販売を主たる業務とする専門商社である。扱っている資材は、大別すると①土木・建築工用骨材（砂利、砂、碎石等）と②セメント・生コンクリート・コンクリート二次製品（側溝、縁石、コンクリートブロック等）の2分野に分かれる。業種としては「建築資材卸業界」という分類になる。

一般には馴染みの薄い業界であるが、道路や橋梁、ビルやマンションなど世の中にある建築物を造るには無くてはならない存在だ。ゼネコンに比べると目立たないため“知る人ぞ知る”という形容が当てはまるものの、私たちの生活や経済活動を支える社会的価値の高い仕事なのである。

もっとも、1年前に父親の土屋武次前社長の他界に伴って事業承継した土屋文武社長は、社会的価値といった理念の話はあまりしない。

事業承継も、必然の流れとして受け止め、ごく自然に社長の座に就いている。「父の後を継ぐのは自分しかいないのだから」と。

文武氏が父親の経営する中央資材に入ったのは、26歳のときである。これも自然の成り行きで、父親の仕事ぶりに影響を受けたとか、土木や建築の世界の一端を担いたいといった志向があったわけではないようだ。

むしろ文武氏が学生の頃に興味を持ったのは、姉が役員をしていたゲーム機器メーカーの仕事だった。

「学生の頃、姉が住んでいた東京・杉並のマンションと同じマンションの一室に住んでいたこともあって、たまたま姉の会社の仕事をバイトで手伝っていたのです。これが結構面白くてね。父の会社のことがあったのでそのまま就職しようとはまでは思いませんでしたが……」

姉の会社とは、東京・板橋区に本社を置く(株)タカデンである。1986年にパチスロなどに使うメダル貸し機「メダルサンド」を開発して一躍名が売れ、急成長した会社だ。現在は文武氏の姉・土屋順子氏が代表取締役社長になっているが、文武氏がアルバイトをしていた頃は、ナンバー2の立場だった。

当時、順子氏が社長だったら文武氏が入社した可能性がなくてもないと勝手に推測するのだが、本人は「いえいえ、私にはやはり父の会社のことがあったので」と、あっさり否定している。

父と文武氏の間で後継者の約束をした形跡はないようだが、文武氏の心のどこかに「後を継ぐ」という思いがごく自然に育まれていたのかもしれない。



営業のアンテナは日夜鋭く

中央資材に入社してからの文武氏の仕事は、主に営業である。経験はもちろん業界知識もほとんどなかったのだから苦労したのかと思えば、そうでもないらしい。既存の取引先を回るルートセールスであるが、人に好かれるタイプらしく抵抗なく相手の懐に入っていく。セールストークを学ぶ必要もない。自然体で得意先との距離を詰めていくのであろう。

気負うことなく、さりとは緩めることもなく自然体で仕事を獲得していくのが文武流と見られる。

この営業スタイルは30年近く経って社長になっても変わらない。

「宣伝はしないし、インターネットを活用するわけでもないけれど、アンテナはピンピン伸ばしていますよ」

アンテナでキャッチするのは、土木・建築に関連する工事予定の情報である。たとえば、ビルやマンションなどの建築予定がわかれば、施主やゼネコンなどに自社から資材を納入してもらうように営業をかける。その際、人を介して「中央資材を使ってもらえないか」と持ちかけたほうが話は早い。

競争が激しいので当然のことながらいち早くアプローチしたほうが有利だ。ゆえに何よりも重要になるのがアンテナなのである。アンテナは座して待っていても機能しない。動かないと情報源に近づくこともできない。そこで必要になるのが人づきあいだ。

「接待もありますが、それよりも普段のつきあいですね。人と普通に飲んでいるときにも、何気ない会話の中から情報が自然に入ってくるがあります」

業界関連のつき合いもあるが、それよりも異業種の人との交流のほうがアンテナに引っかかることが多いと言う。ロータリーやライオンズ、あるいは月星会も大切なつき合いの場になる。

「現在は構造的に利益のきわめて薄い業界なので数量をこなすしかないのですよ。数量をこなすには人との交流によって自然に得られる情報が不可欠です。人からの情報がいちばん確実ですから」

ちなみに、文武氏の母である土屋津以子氏は、非営利活動法人日本・ロシア協会（副会長）をはじめ様々な社会貢献かつグローバルなステージで活躍している方である。文武氏の人づきあいの厚さ、また人に好かれる人間性は家族の中で自然に培われてきたものなのであろう。

（取材・文／奥平）

例会委員会報告

7月例会 平成28年7月28日(木) 於:鯨割烹みどり

7月の夕食例会は、千葉氏の研究をされている丸井敬司様をお迎えしての卓話でした。現在千葉市では「千葉開府890年」ということで様々なPRを展開していますが、これは1126年に千葉常重が猪鼻台(現在の中央区亥鼻)に本拠を移したことを起点としたものです。千葉常重の系譜を遡っていくと、もとは桓武天皇の子孫であったとのことでした。

源頼朝が石橋山の戦いに敗れた後、海を渡って安房に逃れてきた際には、常重の子、千葉常胤の支援があったといえます。当時の千葉町の姿は、千葉神社や広小路など現在の千葉市街にも引き継がれていますが、ここを通った源頼朝によって鎌倉の街づくりにも影響を与えているのではないかと、まだ学説としては定まっていない最先端の研究状況についても非常に興味深いお話をいただき、質疑応答も非常に活発な意見交換となりました。

7月例会の参加者は、会員28名、猪口先生、講師を含めて計30名でした。



8月例会 平成28年8月25日(木) 於:鯨割烹みどり

8月の夕食例会は、犯罪を犯した人々の更生保護活動に従事されている、法務省保護観察官の松川正徳様をお迎えしての卓話でした。近年の日本の犯罪の現況と照らし合わせつつ、更生保護制度の意義や保護司の役割について、具体的な数字を挙げながらわかりやすく説明してくださいました。

約3割の再犯者が約6割の犯罪を引き起こしているという現状、国の対策も再犯防止に重点が置かれています。再犯率を下げるには雇用の有無が大きいことから、協力雇用主となる企業を増やす活動をしているとのことでした。ドラマチックではないので、なかなか脚光を浴びることが少ないとお



しゃっていましたが、重要な仕事であることが伝わりました。

8月例会の参加者は、会員24名、講師1名、計25名でした。

9月例会 平成28年9月21日(水) 於:鯨割烹みどり

9月の夕食例会は、千葉市中央区にある九重幼稚園の園長をされている伊藤徳久先生をお迎えしての卓話でした。昨今、保育については社会問題として注目されていますが、保育という福祉政策ではなく、教育政策として「どういう日本人を育てていくのか」を考えなければならないという力強いメッセージをいただきました。

政府は女性の社会進出を推進していますが、文科省の担当者は「子どもを預けて働くことを当たり前の社会にしたい」とも言います。あえて働かずに子育てに専念し、幼稚園に通わせているお母さん達も、とても大事な仕事をしているということを改めて認識する機会となりました。

9月例会の参加者は、会員26名、ビジター3名、講師1名で合計30名でした。(7、8、9月共、門山事務所・石原裕久)



10月～12月のスケジュール

10/5(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
10/19(水)	第1回経営研修会 出発 8:00 NTT千葉前 亀田総合病院(鴨川市) 見学・院長講演 参加費 会員2,000円 ビジター 2,000円
10/27(木)	夕食例会 18:30開会 鯨割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 4,000円
11/2(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
11/12(土)	ボウリング大会 会場 アサヒボウリングセンター 集合 17:40 スタート 18:00 参加費 大人3,000円 小人2,000円
11/24(木)	夕食例会 18:30開会 鯨割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 4,000円
12/7(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
12/22(木)	夕食例会・望年会 18:30開会 鯨割烹みどり 参加費 会員4,000円 ビジター 5,000円(飲み放題)

編集後記

◆年を重ねるごとに増えてくる体重に、見て見ぬふりを決め込んで来たのですが、先日妻の友人から「ご主人あんなにお腹出てたっけ」と言われたことが意外に堪えました。米や麺など炭水化物が大好きな私ですが、努めて控えるようにし、間食も避け…季節は秋…天高く、何とやらとは言いますが、誘惑に負けずに引き締めていきたいです。(森本哲郎)

◆研修親睦旅行に参加しまして毎度おったまげるのが先輩方々のお酒の量。始終飲み続け楽しく騒いでいるので、どこでも楽しめる選手権がありましたら皆様金メダルですね。自分は入賞すら程遠いです…(内藤 太)